

作成日	2025 年 6 月 23 日
学科名	心理共生学科

自己評価：S・A・B・C

<p>評価項目① 過年度からの改善・向上の取り組み</p> <p>(ア) 質保証の客観性・有効性を高めることを目的として、令和6年度に全学科で実施を依頼した、学生が参画したFDについて、そこで得られた成果・課題について記載してください。</p> <p>(イ) 昨年度の自己点検・評価において各組織で記述した課題・改善方策や、内部質保証推進会議からの提言を踏まえ、現時点における取り組み状況・成果について記載してください。</p>
<p>参照資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過年度のFD実施報告書 ・令和6年度点検・評価シート ・令和6年度内部質保証推進会議からの提言 ・卒業時アンケート（大学） ・ジェネリックスキル測定テスト ・資格取得や進路就職状況 ・各種会議の議事録等

【現状分析】

(ア) 心理共生学科、心理学科、養護・福祉教育学専攻では、学習者主体のカリキュラムの構築および授業形態の設定に向けて、当事者たる在学生より意見を聴取し、より効果的な学習環境の整備を目指すことを目的に、「学生参画による効果的な授業形態およびカリキュラム検討会」というテーマでFDを実施した。詳細は①学生のニーズにこたえるカリキュラムおよび授業形態への改善と整備を目的とした学生全員へのアンケート調査、②学生を交えた検討会、の2点であり、2025年3月に開催した。

①現カリキュラムおよび授業形態に対する学生からの意見聴取

学生の現カリキュラムや授業形態に対する意見を徴収するために発達教育学部心理学科、教育学部養護・福祉教育学専攻の2～4年生と心理共生学部1年生の全員を対象にFormsにてアンケート調査を実施し、120名からの回答を得た。その結果、「現在のカリキュラムについて十分な学びが得られているか？」という質問に対して83%が「やや得られている・とても得られている」と回答し、「現在のカリキュラムにおいて講義と演習科目の比率適切だと思うか？」について78%が「やや得られている・とても得られている」と回答していた。また、「オンデマンド形式の方が対面形式よりも学びへの学習意欲が高まると思いますか？」という問いに対しては、「まったく・あまりそう思わない」「どちらでもない」「やや・全くそう思う」の回答率が38%、33%、29%で、「オンデマンド形式の方が対面形式よりも学びへの学習効果が高まると思いますか？」に対しては、33%、33%、34%であった。ちなみに割り当てられた時間通りに視聴していないという学生が50%で、オンデマンドの視聴を先延ばししてため込んでしまうことが「よく・まあまあある」と回答した学生は45%であった。また、「自分が履修する科目のうち、オンデマンド型の科目の比率はどれくらいが適切か？」という問いについては20～29%が最も多く3割近くを占めていた。

②学生参画によるカリキュラム検討会

・学年を縦断した、カリキュラムについての要望やオンデマンド型授業への座談会を行った。予

定は1時間であったが、それを超えて学生からの意見を得ることができた。

<学生からの意見>

1. カリキュラムに対する要望

- ・抽選科目で当選する確率が低く、希望する科目を受講できないのは大きな不利益である。オンデマンド科目は可能であればもっと枠を増やして抽選に当選しやすくして欲しい。
- ・オンデマンド授業で授業資料を毎年変更せずに使い続けている授業がある。特に過年度の学生の課題に対するフィードバックをそのまま用いるなどされていて、適切なフィードバックがなされていない。
- ・オンデマンド授業の動画のアップロードや課題の締め切りが変動的な科目がある。しっかりと日程を定型にして欲しい。
- ・英語のクラス分けがなされることで、授業の難易度が異なり、それによって成績評価も異なるのは不公平だと感じる。仏教学も先生によって授業の難易度が違い不公平だと感じる。同じ科目については内容や評価の方法は統一して欲しい
- ・1年生から専門科目をもっと履修できると嬉しい<心理・養護>
- ・テストに対して正答や解説などのフィードバックが欲しい
- ・授業内容や学習の進度など、各教員同士での情報共有をしてほしい

2. オンデマンド授業について

- ・専門科目についてはオンデマンドではやめてほしい。
- ・動画無しのオンデマンド授業というのが以前（コロナ禍）あったが授業内容の理解がほとんどできず非常に困った経験があり、動画無しのオンデマンドはやめて欲しい。
- ・オンデマンド教材の長さを90分というのは動画を集中してみる長さとしては長すぎる。1時間くらいがよい。
- ・オンデマンドはみた後に課題があるからタスクが2倍になっているように感じるのを避けたい。
- ・2倍速でみてしまうから、聞こうという意欲も出にくいし、先生の教えたいことを伝えられていないのではないかと思うからオンデマンドはよくないと思う。
- ・オンデマンド授業の割合については参加学生によって意見は違ったものの、「ためてしまうから履修科目のうちの1割～3割くらいが適度」という意見が多かった。
- ・仏教学はオンデマンドにしてほしい。礼拝だけは対面で。
- ・一般教養はオンデマンドがありがたい。

3. その他

- ・オンライン授業を受けることができる場所がない（就職活動においてもオンラインで受けることが多く、Zoomできる場所が欲しい）。
- ・空いている教室がわかるようなシステムがあるとよいと思う。
- ・1日のなかでオンラインと対面の双方の授業があると受講しにくくて大変。
- ・校舎はガラス張りで気が散って集中できない。
- ・演習授業なのにワーク的なものがなく90分先生の話聞きだけの授業はしんどい。
- ・事務の人の対応が冷たい…。

【成果】

・学生からの意見聴取より、現在のカリキュラムや講義と実習科目の比率については概ね問題はなく、オンデマンド型の科目については3割を少し下回る程度が適切であると考えられる。特にオンデマンド型の比率などについては今後の参考にしたいと考える。

・学生参画によるカリキュラム検討会の結果、大学全体で取り組むべき問題点や教養科目など学科では改善への対処ができない点に不満が多いことも明らかになった。

【課題】

今回の調査だけでは具体的な科目内容や個別の講義などについては分からないため、今後の課題として、それらの内容について学生からの意見を徴収する必要がある。

学生参画によるカリキュラム検討会では、学科として、教員間での授業内容の共有など改善すべき点も明らかとなったので、今後は学科内で情報共有し、効果的なオンデマンド授業の方法を交流するなどその改善に取り組みたい。

【改善・発展方策】

昨年度のFD活動を発展させ、今年度は、「学生参画による資格取得とカリキュラム検討会」を予定している。現在、心理共生学科では主に4つの資格取得を提示しているが、学生のニーズに応じた資格取得のためのカリキュラム構築のため、学生参画による資格取得に関する調査を実施し（4月・10月ごろ実施予定）、資格取得を志望する学生を対象に1、2年次のカリキュラム編成などについて意見を聴衆するための検討会を実施する（2月ごろ実施予定）。

（イ）昨年度の自己点検・評価において各組織で記述した課題

【現状分析】

令和6年度には、「心理学科：各授業の教育方法に対する学生の意見を学科の全教員が十分把握できていないため、学科のFD活動につながりにくい」、「養護・福祉教育学専攻：進路状況については、専攻での確認が一部の学生しかできておらず、今後、在校生が卒業生との交流を通して進路を考える場合の課題である」という課題を挙げたが、新学部はまだ発足したばかりであること、既存学科についても具体的対策を講じるには十分な情報が収集されていないため、令和7年度においても継続して情報収集を行う必要があると考える。その中で検討した課題、それに対する改善策を以下のとおり挙げ、今後も引き続き対応を行っていく。

【課題】

<心理共生学科>

今後、学生動向の変化等の要因を分析・検証し、改善・発展方策については、次年度の自己点検・評価において確認する必要がある。

<心理学科>

教育方法について十分な情報が収集されていないので、より良い教育方法についての示唆を得るために、各教員の授業アンケートのコメント欄へのできる限りの記入を受講生に求め、その結果を学科の教員で共有する必要がある。

<養護・福祉教育学専攻>

進路状況については、依然として一部の学生しかできておらず、今後、在校生が卒業生との交流を通して進路を考える場合の課題が残っている。進路状況については、アンケート結果は、教員で共有するとともに、在校生の進路指導の参考とするため、学科独自のアンケート調査を実施するなど新たな対策が必要である。

【改善・発展方策】

<心理共生学科>

現在、入門演習、基礎演習の授業の中で、将来学生が進みたい領域の調査を実施し、学生の動向を調べている。その希望をできるだけ反映できるように、学科会議等で来年度の心理共生演習の授業内容や方法を検討しているところである。

<心理学科>

各教員の授業アンケートのコメント欄へのできる限りの記入を受講生に求め、その結果を学科の教員で共有したいと考え、より良い教育方法についての示唆を得るために、その結果を学科会議で報告する予定である。

<養護・福祉教育学専攻>

進路状況については、学科独自のアンケート調査を実施する予定にしている。アンケート結果は、教員で共有するとともに、在校生の進路指導の参考とできると考えている。

自己評価：S・A・B・C

評価項目② カリキュラムの適切性と成果

- (ア) DP、CPに基づき、体系的な履修を促すカリキュラムとなっているか、記述してください。
(イ) カリキュラムにおける常勤、非常勤の担当教員のバランスは適正か、記述してください。
(ウ) DPの達成につながる学修成果を得られているか、ジェネリックスキル測定テストや卒業時アンケート結果等を分析・活用して、検証してください。

参照資料

- ・カリキュラムマップ、ツリー
- ・単位修得要領
- ・シラバス
- ・科目群別非常勤教員比率
- ・ジェネリックスキル測定テスト
- ・卒業時アンケート（大学）

【現状分析】

(ア) 新学部が発足したばかりであるが、DPに掲げるウェルビーイングの向上や共生社会の構築に取り組むにあたって基盤となる、心理学、社会福祉学、養護保健学等の心理共生学に関する専門的知識を有しているという内容に基づいて、専門科目については教員の専門を再考しよりふさわしい教員に科目担当者を変更するなど、カリキュラムを再構築する必要がある。同時にカリキュラムツリーについても再検討を始める必要がある。

(イ) 非常勤講師率は約 15%程度あり、適切な水準であると思われるが、DP に掲げるウェルビーイングの向上や共生社会の構築に取り組むにあたって基盤となる、心理学、社会福祉学、養護保健学等の心理共生学に関する専門的知識を有しているという内容に基づいて、学生が希望する領域の教員を増員するなどの検討が必要である。

(ウ) ジェネリックスキル測定テスト（1年生）の結果、リテラシーは、他大学・他学科と比較しても高値であり、真面目で論理的思考力の高い学生が多く在籍していると考え、コンピテンシーは、他大学・他学科と比較しても低値である。

【成果】

(ウ) コンピテンシーが低値であることは、対人援助職に就きたい学生にとっては弱点となりうる状況であると考え。大学のカリキュラムの中で、他者と協働して課題に対処するような経験を計画的に授業の中に入れ、インターンシップ、ボランティアといった体験型学習の機会を多く企画することで、社会人としての即戦力を身に付けさせたいと考え、今年度は、入門演習Ⅰの授業の中で、大きな震災や災害などが起こった場合、避難所設営の方法や医療・福祉・学校という多職種連携の方法を学ぶことを目的として BHELP(避難所支援)入門を実施した。様々な対人援助職の方々にインストラクターとしてご参加いただき、避難所レイアウト演習を通し、多職種連携の基礎を学ぶことができた。

【課題】

(ウ) BHELP のインストラクターを各グループに 1 人ずつ派遣をしていただかないといけないので、その調整がたいへんである

【改善・発展方策】

(ウ) 今年度は、心理共生実践という授業を通し、対人援助職のインターンシップやボランティア活動を単位化することで、体験型学習の機会を推奨することで学生のコンピテンシーの向上を目指したい。また、他者を尊重しながら、論理的なコミュニケーションによって相互理解・調整に努め、様々な人々と協働できるための知識やスキル、コンピテンシーを向上する育成の在り方を検討する。

BHELP 研修会については、できれば学科の教員にインストラクター資格を取得していただき、グループワークが実施できるとありがたいと考え、インストラクター講習会等を紹介していきたい。

自己評価：S・**A**・B・C

評価項目③ 成績評価

(ア) 成績分布は、教員間で評価のバラつきが生じていないか。また、学科において検証・調整されているか記載してください。

(イ) 成績評価、フィードバック等がシラバスに基づき適切に実施されているか、学修行動調査やALCS 学修行動比較調査等の結果（評価の公平性の学生満足度）から検証し、記載してください。

参照資料

- ・各科目の成績分布
- ・学修行動調査の成績評価に関する設問

【現状分析】

（ア）心理共生学科では大きなバラツキはないものの、入門演習Ⅰ・Ⅱ、心理共生入門以外は、成績評価や単位認定についての共通的な理念については検討しておらず、各教員の考え方に任せているのが現状である。

（イ）

<心理共生学科>

心理共生学科の授業科目における成績評価、単位認定の方法は遺漏なくかつ適切にシラバスに適切に記載されている。なお、成績評価及び単位認定に対する学生からの不服申し立てへの対応については、全学で統一した方法で行われており、学生にも周知されている。ALCS 学修行動比較調査の【満足度】（1年生）「69. 学んだ成果に対する評価のされ方」において、心理共生学科の2024年度は1.45 大学（大学平均は、1.33）であり、成績評価やフィードバックはほぼ適切に実施されている。各科目の成績分布より、偏りは生じておらず、学科内において成績評価のバラつきは認められない状況である。

<心理学科>

心理学科の授業科目における成績評価、単位認定の方法は遺漏なくかつ適切にシラバスに適切に記載されている。また、ALCS 学修行動比較調査の【満足度】（3年生）「69. 学んだ成果に対する評価のされ方」において、心理学科の2019年度は1.35（大学平均は、1.32）、2020年度は1.29（大学平均は、1.17）、2021年度は1.06（大学平均は、1.25）、2022年度は1.62（大学平均は、1.34）、2023年度は1.31（大学平均は、1.37）、2024年度は1.93（大学平均は、1.57）であり、成績評価やフィードバックはほぼ適切に実施されている。各科目の成績分布より、偏りは生じておらず、学科内において成績評価のバラつきは認められない状況である。

<養護・福祉教育学専攻>

養護・福祉教育学専攻の授業科目における成績評価、単位認定の方法は遺漏なくかつ適切にシラバスに適切に記載されている。また、ALCS 学修行動比較調査の【満足度】（3年生）「69. 学んだ成果に対する評価のされ方」において、養護・福祉教育学専攻の2019年度は1.35（大学平均は、1.32）、2021年度は0.70（大学平均は、1.25）、2022年度は1.15（大学平均は、1.34）、2023年度は1.03（大学平均は、1.37）、2024年度は1.27（大学平均は、1.57）であり、専攻の特性として数人の教員が担当するオムニバス授業が多く、担当教員間での成績評価のばらつきを予防するため、評価基準を決めて、採点表を担当教員全員で閲覧できるようにしているが、大学平均と比較して低率であり、評価基準の再検討を実施しているところである。

【成果】

・予想以上に社会福祉士を希望する学生が多く、新しく実習担当の非常勤講師を採用するにあたって、オムニバス形式の科目や同じ授業を少人数に分けて担当する科目については、改めて評価基準のすり合わせを実施した。

・養護教諭を希望する学生が多く、看護臨床実習の実習病院で実習内容にばらつきがあるので、実習全体報告会を開催し他の実習病院で学んだことも共有できるようにしたり、評価基準の共有も実施した。

【課題】

(ア・イ) 資格取得等に関わる重要な問題であると考えられるためさらなる改善が必要と考えられる。

【改善・発展方策】

(ア・イ) 心理共生学科では、基礎演習Ⅰ・Ⅱ、心理共生実践等の新しい科目が始まり、多くの教員が教育課程に関与するため、中心となる担当者を決め、担当者間で授業内容や評価方法を共有していきたい。